家族史レポート　北海道移住と開拓の章

北の原野に、暮らしを拓く

出生・移住・婚姻の記録からたどる高祖父の足跡

公開見本のため、ご依頼者様とご先祖の氏名は掲載していません。

ご依頼のきっかけ

本州にお住まいのご依頼者様は、戸籍謄本を調べる中で、ご先祖の名前や出身地を初めて知り、北海道に親族が多いことにも気づかれました。

ご依頼の時点で分かっていたのは、戸籍謄本に記された情報だけでした。なぜ、いつ北海道へ渡り、どのような暮らしを送っていたのか。その疑問をきっかけに、リオンヌ調査室へ先祖調査をご依頼いただきました。



本章では、戸籍謄本から分かっていた出生・婚姻の情報と、リオンヌ調査室の独自調査で判明した移住・仕事・暮らしの記録を、明確に分けてご紹介します。

1｜戸籍謄本から分かったこと

ご依頼前に分かっていたのは、戸籍謄本に記された情報でした。高祖父（ひいひいおじいさん）とその妻について、次の内容が分かっていました。

高祖父

生年月日	慶應元年 11 月 4 日
出生地	山形県村山郡北谷村大字新吉田
戸籍上の婚姻	明治 40 年 7 月

高祖父の妻

生年月日	明治 4 年 2 月 29 日
出生地	不明
戸籍上の婚姻	明治 40 年 7 月

生年月日と出生地は、戸籍謄本をもとにご依頼者様からお知らせいただいた表記で掲載しています。お子様の出生についても、同じくご依頼者様からお知らせいただいた戸籍情報です。

お子様の出生記録

明治 27 年から 10 人のお子様が生まれており、いずれも戸籍に記された婚姻年月より前の出生です。

戸籍謄本だけでは分からなかったこと

北海道へ渡った時期や経緯、移住後の仕事や暮らしは、戸籍謄本の情報だけでは分かりませんでした。これらを調べるため、リオンヌ調査室が歴史資料の調査を行いました。

情報の出所：戸籍謄本。次ページ以降は、リオンヌ調査室の独自調査による結果です。

2｜リオンヌ調査室の独自調査で分かったこと

リオンヌ調査室は、戸籍謄本の情報を手がかりに歴史資料を調査し、明治 31 年の移住者名簿と農場報告の両方に、高祖父の名前を確認しました。ご依頼者様が戸籍謄本だけでは知ることのできなかった事実です。

移住者名簿に残る北海道へ渡った年

明治 31 年（1898 年）、北海道同志教育会は、山形県を中心に第 2 回の移住者を募集しました。リオンヌ調査室の調査により、その名簿に高祖父の名前が記されていることが分かりました。

農場報告に残る移住後の仕事

同年の農場報告には、1 町 5 反以上の土地に種まきを終えた人々の名前が挙げられています。リオンヌ調査室は、この記録にも高祖父の名前を確認しました。



リオンヌ調査室の調査で、名前から仕事の記録へ

戸籍の出生・婚姻情報に加えて、北海道へ渡った年と、移住後に農場で種まきをしていたことまで分かりました。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

リオンヌ調査室の独自調査｜移住先の時代背景

3｜高祖父が渡る前の開拓地の苦難

明治 30 年、北海道同志教育会は、農業と教育を結びつけた開拓事業を進めていました。しかし、資金が不足し、約束した食料や生活物資が十分に届かず、多くの移住者が農場を離れました。





これは、高祖父が名簿に載る前年の状況です。高祖父本人の体験ではなく、移住先が抱えていた事情として紹介しています。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

リオンヌ調査室の独自調査｜移住団の行程

4｜酒田から北の海を越えて

リオンヌ調査室の調査では、高祖父が名を連ねる第 2 回移住団の行程も分かりました。一行は山形県の酒田港から北海道へ向かっています。

4 月 29 日夕方	70 戸余りが酒田港を出航。木造船「奴奈川丸」で北海道へ向かう。
航海の途中	利尻島の鴛泊港に立ち寄り、湧別を目指す。
5 月 3 日朝	湧別港に到着。小舟に乗り移って上陸し、入植地の抽選を行う。
5 月 3 日夕方	荷物を背負って学田農場へ。先に入植した人の家や仮小屋で一夜を過ごす。

いずれも明治 31 年（1898 年）の出来事です。



この行程は移住団全体のものです。高祖父個人の乗船記録や、同行した家族の詳細が示されているわけではありません。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

リオンヌ調査室の独自調査｜開拓地の暮らし

5｜農場に着いてからの暮らし

リオンヌ調査室が調べた記録によると、移住者たちを待っていたのは、周囲に森林が広がる土地でした。到着した夜は、先に入植した人の家や、移住者のための仮小屋で過ごしています。



小屋を直し、土地を耕すところから

移住者の一人が残した手記には、割り当てられた小屋の屋根が傷み、室内から空が見えるほどだったことが記されています。人々は小屋を修理し、木を切り、農業を始める準備を進めました。

高祖父の暮らしを考えるための背景

小屋の具体的な様子は、別の移住者の手記に基づくものです。高祖父の住まいが同じ状態だったと断定することはできません。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

リオンヌ調査室の独自調査｜高祖父本人の仕事の記録

6｜種まきの記録が伝える仕事

リオンヌ調査室が調べた明治 31 年 7 月の農場報告には、早朝から夕暮れまで木を伐り、畑を耕し、種をまく人々の姿が記されています。月明かりを頼りに作業を続ける人もいたといいます。



高祖父の名前とともに残る「1 町 5 反以上」

高祖父は、1 町 5 反以上の土地に種まきを終えた人物の一人として挙げられています。移住者名簿だけでは分からない、農場での仕事を伝える記録です。

ただし、この数字は報告書に記された種まきの面積です。一人ですべてを開墾したことや、暮らしが安定していたことまでを示すものではありません。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

リオンヌ調査室の独自調査｜開拓地の教育・医療・交流

7｜農作業の合間に生まれた交流の場

第 2 回移住者の入植後、農場では麦、ジャガイモ、大豆、小豆などの栽培が進みました。子どもへの教育や医療を担う人もおり、農業だけでなく、暮らしを支える営みが始まっていました。

明治 31 年 6 月 23 日には親睦会が開かれ、家族連れを含む数百人が集まりました。綱引きや相撲、競馬などを楽しんだと記されています。



こうした記録からは、土地を耕すだけでなく、人々が共に暮らす場所をつくろうとしていた様子がうかがえます。

ただし、高祖父本人が親睦会に参加したかは分かりません。また、農場報告の明るい記述だけから、生活全体が安定していたとは判断できません。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

リオンヌ調査室の独自調査｜開拓地を襲った災害

8｜移住した年に開拓地を襲った大洪水

明治 31 年 9 月、湧別川の洪水により農地が水没し、川沿いの農作物と 20 戸余りの小屋が流されました。





リオンヌ調査室の調査では、犠牲者が出たことや、アイヌの人々が舟で救助に当たったことも分かりました。ただし、高祖父個人の被害や避難の状況は未確認です。

参考資料：北海道の古い歴史書に収められた記録。調査・整理：リオンヌ調査室。

9｜戸籍と独自調査でつながる家族の歩み

戸籍謄本で分かっていた出生・婚姻の情報に、リオンヌ調査室が独自調査で明らかにした移住や仕事の記録が加わり、高祖父の歩みをたどることができました。

戸籍謄本から分かったこと

高祖父と妻の生年月日、高祖父の出生地、戸籍上の婚姻年月、お子様 10 人の出生。

リオンヌ調査室の独自調査で分かったこと

明治 31 年の北海道移住と種まきの記録。移住団の行程、開拓地の暮らしや洪水の様子。

夫婦の歩みと、まだ分かっていないこと

高祖父が移住を決めた具体的な理由や洪水後の暮らし、妻の出生地と移住の有無・時期、婚姻した場所は未確認です。ご夫婦の出会いや初婚・再婚の別も分かっていません。

戸籍に記された婚姻年月は明治 40 年 7 月で、明治 31 年の移住記録より後に当たります。一方、明治 27 年から 10 人のお子様が生まれており、いずれも戸籍に記された婚姻年月より前の出生です。このことから、明治 27 年頃には、お二人がすでに夫婦として暮らしていたと考えられます。ただし、お二人が一緒に北海道へ渡ったかどうかは、現在の記録だけでは判断できません。

情報の出所と調査主体

戸籍情報：ご依頼者様からお知らせいただいた、戸籍謄本に基づく出生・婚姻・お子様の出生情報。
独自調査：リオンヌ調査室による歴史資料の調査。北海道の古い歴史書に収められた移住者名簿や農場報告などを調べました。

本章は、戸籍謄本の情報を出発点として、リオンヌ調査室の独自調査で判明した結果をまとめた家族史レポートの公開見本です。

掲載画像について

掲載画像は、当時の記録をもとに AI で生成したイメージであり、当時の実際の写真や、ご先祖本人の姿を再現したものではありません。

リオンヌ調査室

先祖の名前から、その人が生きた場所と暮らしへ。

家族史レポートのご案内

https://chosa.lionne.jp/family-history/monitor/